

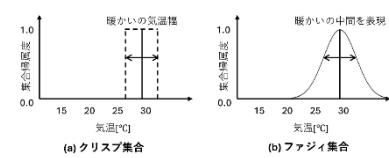
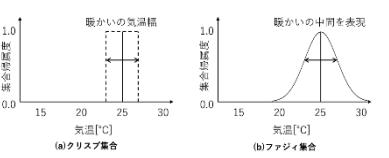
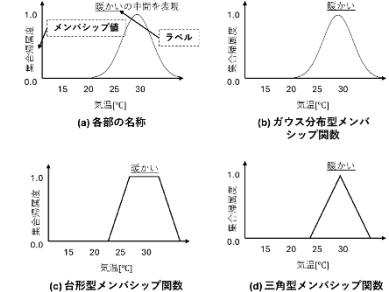
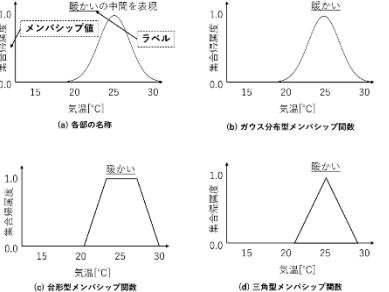
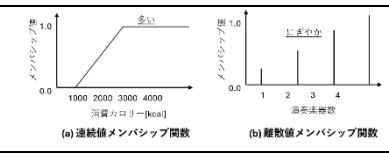
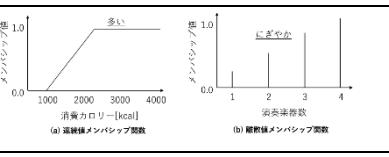
『感性情報処理』正誤表

著者名 竹之内 宏

初版 Ver.1.0

No	頁	行	誤	正																																								
1	59	(2)の本文冒頭	H は 0~360	H は 0~359																																								
2	75	表 5.2 最左下	順位回答	自由回答																																								
3	100	8 行目	374.32 と 30.62	2.82 と 1.55																																								
4	100	10 行目	12.22	1.82																																								
5	100	表 6.10	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><th></th><th>平方和</th><th>自由度</th><th>平均平方</th><th>F</th></tr> <tr><td>群間</td><td>748.63</td><td>2</td><td>2.82</td><td>1.82</td></tr> <tr><td>群内</td><td>1745.55</td><td>57</td><td>1.55</td><td></td></tr> <tr><td>全体</td><td>2494.18</td><td>59</td><td></td><td></td></tr> </table>		平方和	自由度	平均平方	F	群間	748.63	2	2.82	1.82	群内	1745.55	57	1.55		全体	2494.18	59			<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><th></th><th>平方和</th><th>自由度</th><th>平均平方</th><th>F</th></tr> <tr><td>群間</td><td>5.63</td><td>2</td><td>2.82</td><td>1.82</td></tr> <tr><td>群内</td><td>88.30</td><td>57</td><td>1.55</td><td></td></tr> <tr><td>全体</td><td>93.93</td><td>59</td><td></td><td></td></tr> </table>		平方和	自由度	平均平方	F	群間	5.63	2	2.82	1.82	群内	88.30	57	1.55		全体	93.93	59		
	平方和	自由度	平均平方	F																																								
群間	748.63	2	2.82	1.82																																								
群内	1745.55	57	1.55																																									
全体	2494.18	59																																										
	平方和	自由度	平均平方	F																																								
群間	5.63	2	2.82	1.82																																								
群内	88.30	57	1.55																																									
全体	93.93	59																																										
6	101	1 行目	$F = 1.82 > 3.15$	$F = 1.82 < 3.15$																																								
7	101	2-6 行目	する。したがって、有意水準 5% で 3 つのシステムの使いやすさ評価の平均について、少なくとも 1 つの組み合わせには差があると結論付けられる。しかし、どのシステム同士の間に差があるかは分散分析では特定できないため、組み合わせを特定するためには 6.8 節で述べる多重比較による検証が必要である。	できない。したがって、有意水準 5% で 3 つのシステムの使いやすさ評価の平均について、どの組み合わせについても差があるとはいえないと結論付けられる。仮に有意差が確認された場合に、どのシステム同士の間に差があるか特定するためには、6.8 節で述べる多重比較による検証が必要である。																																								
8	102	脚注 16	CHISQ.DIST.RT(検定統計量, 自由度)	CHISQ.INV.RT(有意水準, 自由度)																																								
9	114	表 7.1	人口的	人工的																																								
10	136	表 9.1 に関する脚注の追加		目的変数の有無「なし」は、分析対象となるデータの中に目的変数があるかないかを示す。主成分分析では、現存の変数を用いて、主成分といわれる目的変数を生成する。																																								
11	144	2 行目	row.names	read.csv 関数の第 1 引数 filename は読み込み対象のファイル名である。第 2, 3 引数 header, row.names																																								
12	146	下から 5 行目	第 1 引数	第 1 引数 data は、主成分分析をかけるデータオブジェクトであり、第 2 引数 cor は、分析に用いる行列の種別を																																								

				示す。TRUE ならば相関行列。																																																								
13	147	9.5.7 の 本文 2 行目		「オブジェクト」も本文と同じフォント																																																								
14	148	コード (9.12)	PC-2	PC-3																																																								
15	149	15 行目	だけではなくはその	だけでなく、その																																																								
16	159	表 10.3	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th colspan="2">解釈しやすい因子負荷量</th> <th colspan="2">解釈しにくい因子負荷量</th> </tr> <tr> <th>共通因子1</th> <th>共通因子2</th> <th>共通因子1</th> <th>共通因子2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変数1 0.021</td> <td>0.941</td> <td>0.321</td> <td>0.941</td> </tr> <tr> <td>変数2 0.956</td> <td>0.066</td> <td>0.386</td> <td>0.966</td> </tr> <tr> <td>変数3 0.159</td> <td>0.848</td> <td>0.299</td> <td>0.848</td> </tr> <tr> <td>変数4 0.062</td> <td>0.765</td> <td>0.355</td> <td>0.896</td> </tr> <tr> <td>変数5 0.832</td> <td>0.050</td> <td>0.402</td> <td>0.905</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th colspan="2">解釈しやすい因子負荷量</th> <th colspan="2">解釈しにくい因子負荷量</th> </tr> <tr> <th>共通因子1</th> <th>共通因子2</th> <th>共通因子1</th> <th>共通因子2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変数1 0.021</td> <td>0.941</td> <td>0.321</td> <td>0.941</td> </tr> <tr> <td>変数2 0.956</td> <td>0.066</td> <td>0.386</td> <td>0.966</td> </tr> <tr> <td>変数3 0.159</td> <td>0.848</td> <td>0.299</td> <td>0.848</td> </tr> <tr> <td>変数4 0.062</td> <td>0.765</td> <td>0.355</td> <td>0.896</td> </tr> <tr> <td>変数5 0.832</td> <td>0.050</td> <td>0.402</td> <td>0.905</td> </tr> </tbody> </table>	解釈しやすい因子負荷量		解釈しにくい因子負荷量		共通因子1	共通因子2	共通因子1	共通因子2	変数1 0.021	0.941	0.321	0.941	変数2 0.956	0.066	0.386	0.966	変数3 0.159	0.848	0.299	0.848	変数4 0.062	0.765	0.355	0.896	変数5 0.832	0.050	0.402	0.905	解釈しやすい因子負荷量		解釈しにくい因子負荷量		共通因子1	共通因子2	共通因子1	共通因子2	変数1 0.021	0.941	0.321	0.941	変数2 0.956	0.066	0.386	0.966	変数3 0.159	0.848	0.299	0.848	変数4 0.062	0.765	0.355	0.896	変数5 0.832	0.050	0.402	0.905	
解釈しやすい因子負荷量		解釈しにくい因子負荷量																																																										
共通因子1	共通因子2	共通因子1	共通因子2																																																									
変数1 0.021	0.941	0.321	0.941																																																									
変数2 0.956	0.066	0.386	0.966																																																									
変数3 0.159	0.848	0.299	0.848																																																									
変数4 0.062	0.765	0.355	0.896																																																									
変数5 0.832	0.050	0.402	0.905																																																									
解釈しやすい因子負荷量		解釈しにくい因子負荷量																																																										
共通因子1	共通因子2	共通因子1	共通因子2																																																									
変数1 0.021	0.941	0.321	0.941																																																									
変数2 0.956	0.066	0.386	0.966																																																									
変数3 0.159	0.848	0.299	0.848																																																									
変数4 0.062	0.765	0.355	0.896																																																									
変数5 0.832	0.050	0.402	0.905																																																									
17	160	1 行目	目的変数	説明変数																																																								
18	162	下から 7 行目	第 4 引数	第 4 引数 rotation によって指定できるが、デフォルトではバリマックス回転となる。無回転の場合は rotation="none"、プロマックス回転の場合は																																																								
19	165	10.3.5 の 本文冒 頭	scores	factanal 関数の計算結果のオブジェクトの属性 scores																																																								
20	166	10.3.7 の 本文 7 行目	ここで、	ここで、cor 関数は引数の相関係数行列を求めている。実際に、																																																								
21	166	10.3.7 の 本文 11 行目	第 2 引数	第 2 引数 type はデータプロットの書式を示す。第 3, 4 引数は x, y 軸のラベルである。第 2 引数																																																								
22	176	1 行目	2, 3, 4, 5, 6, 10 と 1, 7, 8, 9	B, C, D, E, F, J と A, G, H, I																																																								
23	182	11.5.2 の 本文 8 行目	実際には、	実際には、data オブジェクトに表 9.5 のデータを読み込んでいるとして、コード (11.2) を実行する。実行後、																																																								
24	182	11.5.3 の 本文 3 行目	第 1 引数	第 1 引数 data は距離行列データ、第 2 引数																																																								
25	183	3 行目	第 1 引数	第 1 引数 data に datadis、第 2 引数 method に																																																								
26	183	7 行目	resulth	result																																																								
27	186	11 行目	第 1 引数	第 1 引数 data はデンドログラム描画元データ、すなわちクラスタリングの結果である。第 2 引数が h の場合はデ																																																								

				シドログラムをカットする距離, すなわち高さを指定し, k の場合は分割するクラスタ数を指定する. 例えば, h を
28	186	17 行目	また,	また, k を
29	187	11.6.1 の本文 2 行目	表 11.3	表 9.5
30	187	11.6.1 の本文 6 行目	第 1 引数	第 1 引数 <code>data</code> は分類対象データ, 第 2 引数 <code>centers</code> はクラスタ数, 第 3 引数 <code>nstart</code> はクラスタリングの試行回数, 第 4 引数 <code>iter.max</code> はクラスタ割り当て回数の最大値を示す. 例えば, <code>centers</code> を 3, <code>nstart</code> を 10, <code>iter.max</code> を 10 としてコード (11.13) を実行する. 第 3 引数
31	189	3 行目	数値を <code>NA</code> ¹²⁾	数値を <code>vec.center</code> に代入している. 2 行目は <code>vec.center</code> の要素数を変数 <code>m</code> に代入している. 3 行目は特定の値(コード (11.14) では <code>NA</code> ¹²⁾)
32	189	3 行目	要素数	要素数 <code>m</code> の数列を生成している. 4 行目は <code>for</code> 文によって繰り返し回数を <code>m</code> に設定し, <code>kmeans</code> 関数実行における
33	193	図 12.1		
34	194	図 12.2		
35	195	図 12.3		
36	196	17 行目	<code>xn#</code>	<code>xn</code>

37	203	図 12.9	<p>図 12.9</p> <p>式 (12.6) 下げる 式 (12.7) 上げる 式 (12.8) 下げる 式 (12.9) 上げる 式 (12.10) 下げる 式 (12.11) 上げる</p>	<p>図 12.9</p> <p>式 (12.6) 下げる 式 (12.7) 上げる 式 (12.8) 下げる 式 (12.9) 上げる 式 (12.10) 下げる 式 (12.11) 上げる</p>
38	204	4 行目	0.67+ +0.73	0.67 +0.73
39	204	図 12.10	<p>図 12.10</p> <p>式 (12.6) 下げる 式 (12.7) 上げる 式 (12.8) 下げる</p>	<p>図 12.10</p> <p>式 (12.6) 下げる 式 (12.7) 上げる 式 (12.8) 下げる</p>
40	205	図 12.11	<p>図 12.11</p> <p>式 (12.6) 下げる 式 (12.7) 上げる 式 (12.8) 下げる</p>	<p>図 12.11</p> <p>式 (12.6) 下げる 式 (12.7) 上げる 式 (12.8) 下げる</p>